



ニッケルに加えて新たに銅の回収もできるようにする

(長野市の工場)

工場排水は薬剤を大量に使い沈殿物を作って埋め立てるケースが多い。みずず工業は排水処理プラント開発のアクアテック(大阪市)が開発したシステムを昨年十月に導入。金属資源を有効活用

工場排水に硫化剤や凝固

みずず工業

重金属回収ライン増設

工場排水処理で有効活用

産業廃棄物処理業のみずず工業(長野市、林宏道社長)は工場排水から重金属を回収するラインを増設する。昨年始めたニッケルの回収量を増やすほか、銅の回収も始める。従来は大半が廃棄処分されていた重金属を有効活用して環境面の向上にも貢献していく。

剤を加えて硫化化合物を生成。さらに脱水、ろ過して重金属を含む沈殿物を取り出す。ニッケルを含む沈殿物は米国の資源リサイクルメーカーに販売している。

ラインは今年度中に二本が増やす。ニッケル回収量が増えるほか、プリント基板の研削工程などでできる銅を含む排液も処理できるようになる。銅を含む沈殿物は米国メーカーに加えて国内の廃棄物処理業者にも販売していく。「研究途上の亜鉛など他の金属の回収も

手がけていきたい」(林社長)という。

新ラインの投資額は約四千万円。みずず工業は八十二銀行が環境に配慮している企業向けに発行する私募債「信州エコ・ボンド 山紫水明」で資金を調達した。二十五日の発行予定で、同ボンドの契約第一号となる。環境管理の国際規格「ISO14001」を取得済みで、環境保全活動の団体に参加するなど基準を満たした。通常より低い利率で融資を受けられるという。発行額は一億円で期間は五年。八十二銀が保証し全額を引き受ける。

長野経済

(支局)

長野 〒380-0838 長野市県野532の6

(電)026-232-2111

松本 〒390-0815 松本市深志2-5-26

松本第一ビル4F (電)0263-36-3007